



move
up
further

Software Development Business Report

第51期 報告書

2020年1月1日▶2020年12月31日



Contents

- ごあいさつ
- アイ・エス・ビーグループの事業領域
- 連結分野別業績
- アイ・エス・ビーグループ理念体系



代表取締役社長
若尾 一史

このたび、代表取締役社長に就任いたしました若尾 一史です。就任にあたり、株主の皆様にご挨拶申し上げます。

さて、ここに3か年中期経営計画『中期経営計画2020』の最終年度である第51期(2020年1月1日から同年12月31日まで)の事業概況をご報告し、あわせて『中期経営計画2023』及び第52期の取り組みについてご説明いたします。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により急速に高まったテレワーク需要やシステム開発・運用に対応する新たな需要や既存システムの効率化、また5G等新たな技術に対応する技術開発等を取り込み堅調に推移いたしました。

このような環境下、当社グループでは新型コロナウイルス感染症への予防と対策を徹底し、生産性に対する影響を最小限に留める取り組みを行い、業務システム・プライム事業においては大型案件を受注するなど事業規模の拡大にも努めてまいりました。その結果、当連結会計年度の連結業績は、連結売上高は期中に上方修正した目標は達成できなかったものの、前期実績をいずれも上回り過去最高売上高・最高益を更新となりました。第51期末の配当金は、配当性向30%を目標に内部留保を勘案の上、可能な限り安定した配当を継続する方針のもと63円(普通配当53円、創立50周年記念配当10円)とさせていただきます。

株主の皆様には、今後とも何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

50年の伝統を引き継ぎ、シンプルな経営哲学を力にグループの更なる飛躍に挑戦

創立50周年を迎えた第51期決算では、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、グループ従業員の頑張りにより過去最高売上高・最高益を更新することができました。前社長から経営を引き継ぐにあたり、私は創立者の故若尾守保の言葉である「夢をもって夢に挑戦」の実現に向けた次の50年を創り出すために、自ら率先してチームを立ち上げ、当社グループの理念体系を新たに策定いたしました。

私は、経営者の重要な役割の1つにグループ従業員がやりがいを持って働く環境づくりがあると考えており、教育計画等、そのための環境を整備しています。自分を磨くために目標を設定し、日々スキルを上げていって欲しいと思っています。また夢に向かって挑戦する従業員を大切にするために、社会における存在価値であるMissionと、Missionを実現した具体的な姿を示すVisionを従業員と共に新たに創りあげたのですが、時代の変化に適応し、

これまでの50年間に各分野で培った卓越した技術と製品の提供を通じて、誰もが幸せになる社会づくりに貢献することこそが我々グループの使命であり、この取り組みを継続することこそが私の役割だと考えるようになりました。

今は新型コロナウイルス感染症という大変な環境下にありますが、これから先も想像できないような事態、環境変化が当然起こり得ると思います。新Visionでは、常にグループ全員で時代の変化に対するアンテナを張って未来を切り拓く価値観を定義しました。不透明な世の中だからこそ、新たな環境づくりに挑戦する価値があると思います。テレワークやリモートワークが続く社会で何が困りごとなのか、困りごとに対してシステムが役に立てることがないのか、挑戦のその先に未来につながるものを提供していきたいと思っています。

人財の強みを活かし有望分野でのソリューション提供を強化

お客様や多方面から、当社従業員の働きがとて真面目で責任感があるという評価を受けています。多様な人材が集まるIT業界の中でも、これは誇れることであり、この先もしっかりと継承すべきことです。また常に仕事に対して前向きで、技術の勉強をする、更には新たな技術を身に付けようとする従業員が多いことも強みであり、これらは最近の業績傾向にもしっかりと反映されていると思います。

1970年6月に設立した当社は、従業員に支えられ時代を象徴する様々なシステム開発に携わってまいりました。これまで培った技術とサービス・ノウハウをベースに、新生ISBでは、お客様の課題を理解し独自の統合ソリューション提案や新たなプロダクトの開発・販売も強化してまいります。第52期からスタートした「中期経営計画2023」では、売上高300億円、営業利益24億円を

目指します。この目標に向け3つの重点戦略を掲げましたが、「顧客開拓、有望分野の拡大」「ソリューション事業の創出」では5G関連、車載、モビリティ・サービス、医療、業務サービスを有望分野と考え、お客様目線に立ったソリューションの提案・提供を強化するための取り組みとなっています。FAE(技術営業)の拡充により提案営業を推進し、「中期経営計画2023」最終年度の2023年12月期には新規顧客からの売上高75億円を目指します。

ソリューション事業では、お客様のニーズに対して我々が要件定義からシステム提供まで一貫して行う「プライム事業」の拡大に挑戦しています。このような形の売上高は数億円程度でまだまだ規模が小さいのですが、当社グループの総力が高いレベルでお客様から問われる業務といえます。ソリューション営業部の創設を行い、規模の拡大を推進しています。

ISBグループ中期経営計画2023の概要

方針 **新しい一歩～move up further～**
新生ISBグループ創出に向け、今までの50年の進化と新たな領域への挑戦でより多くのお客様にソリューションを提供できる企業を目指す。

2023年度グループ目標 **重点戦略**

売上高 **300**億円

営業利益 **24**億円

営業利益率 **8%**

1.顧客開拓、有望分野の拡大
営業力と技術力の強化。

2.ソリューション事業の創出
プロダクトと特化した知見に幅広い業務実績を融合したソリューションの創出。新しいビジネスモデルへの挑戦。

3.グループ経営強化
新ミッション・ビジョン、グループ理念体系を共有。グループシナジーによる事業拡大、管理業務効率化。

を目指す

新規顧客の開拓

営業力・技術力を活かし、新規顧客を開拓していく

- FAE(技術営業)の拡充により提案営業を更に推進し、新規顧客を開拓。事業の拡大と収益基盤の安定化を図る。

KPI **新規顧客売上高比率：25%**

■ 既存顧客 ■ 新規顧客

【新規顧客】
2021年12月期から3年間で開拓する顧客の最終年度の売上高75億円を目指す

- FAE(技術営業)による提案営業の推進
- 営業ツールの活用やセミナー開催等による顧客誘導など新たな営業手法の導入

グループ経営を進化

当社は2013年からグループ経営の強化に取り組み、事業拡大とともにグループ会社も徐々に増えてきております。今回新たに定めたISBグループ理念体系を共有し、グループ企業間での人材・技術交流を通じた事業面での協業や、共同でのプロダクト開発・販売によるグループシナジーの創出を強化したいと考えています。

具体的には、オフショア・ニアショア活用による地域拠点でのビジネス推進を考えており、受注したプロジェクト要件に合わせたグループ企業別対応を進めてまいります。更に各社の得意分野においては、強みである技術やノウハウをグループ間で共有する連携の拡大を目指しています。またグループ経営基盤を強化するために、管理業務の一元化による業務効率化、内部管理体制の強化の推進にもしっかりと取り組んでまいります。

株主の皆様へ

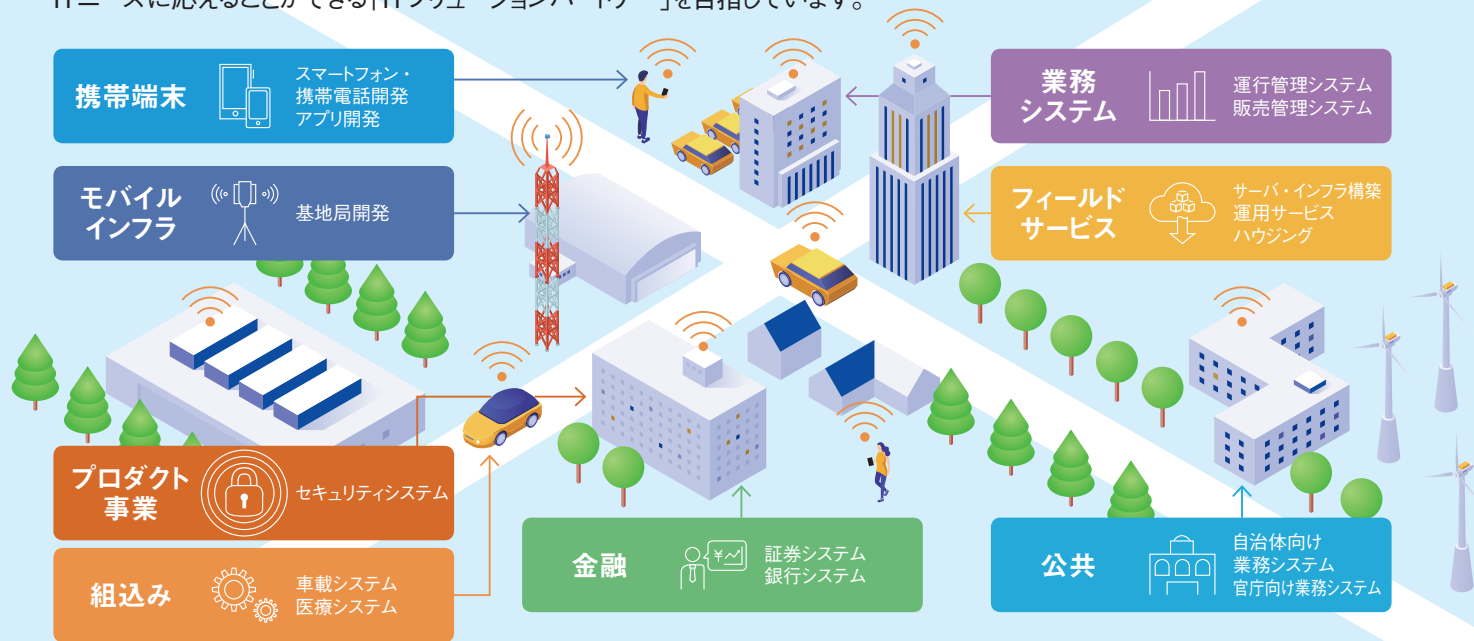
2021年は、次の50年へ踏み出す新しい一歩の年となります。更には新しい中期経営計画の初年度の年でもあります。新生ISBグループの創出に向けて、今までの50年の進化と新たな領域への挑戦により、事業拡大を図ってまいります。

これからの50年も皆様と共に歩んでまいりたいと願っております。今後ともより一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



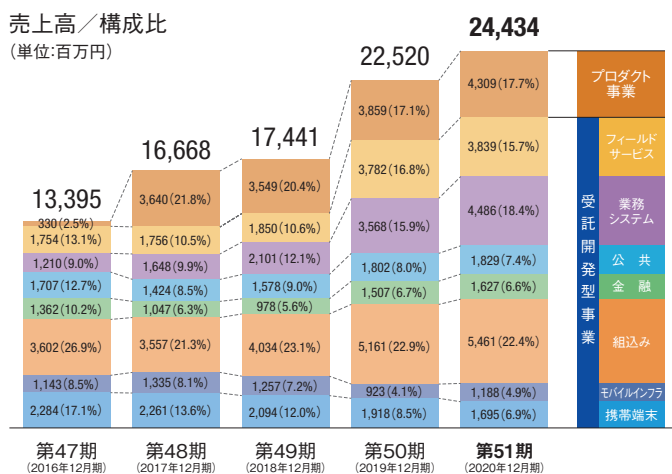
アイ・エス・ビーグループの事業領域

当社グループは、モバイルコンピューティングシステムサービスを中心に、流通・製造、金融、医療・介護、官庁・自治体、放送、アウトソーシング等、各分野で培ったコア技術とサービス・ノウハウを融合した統合ソリューションの提供により、お客様の真のITニーズに応えることができる「ITソリューションパートナー」を目指しています。



連結分野別業績

売上高／構成比
(単位:百万円)



2021年12月期の主な事業分野の業績見通し

- 組み込み**
 車載系業務のうち、モビリティ・サービス関連業務を業務システム分野に移行しているが、その他業務は堅調に推移することが予想され、2020年12月期並みの売上を計画しております。
- 業務システム**
 医療、IoT、モビリティ・サービスといった分野におけるクラウドを含めたシステム開発の受注拡大を目指し、増収を計画しております。
- フィールドサービス**
 サーバ・ネットワーク構築業務の更なる拡大による増収を計画しております。
- プロダクト事業**
 セキュリティシステムのリニューアル案件やALLIGATEなどの新サービス、MDM事業・L-Share事業の拡大による増収を計画しております。

アイ・エス・ビーグループ理念体系

アイ・エス・ビーグループ企業理念

夢を持って夢に挑戦

私たちアイ・エス・ビーグループは卓越した技術と魅力ある製品・サービスで心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献します。

時代の変化に適応し、知恵とITの融合により、未来を切り拓く新たな価値を創造します。

誇り 誠実 挑戦

誇り

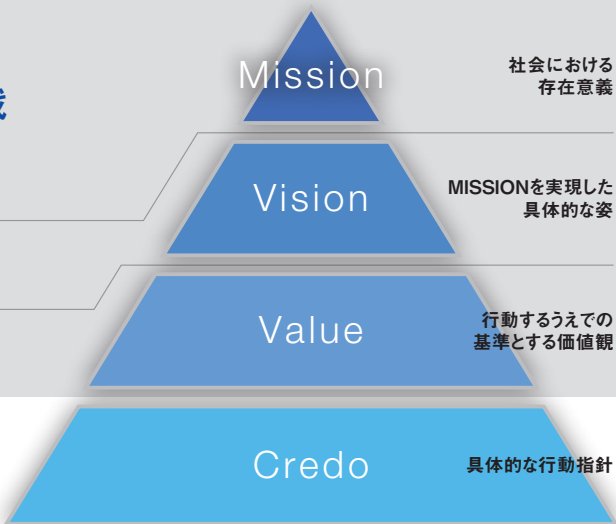
プロフェッショナルとして、自らが技術とアイデアを磨き続け、成長するとともに企業の発展を通じて社員の健康と家族の生活を応援します。

誠実

お取引先様と常に誠実に向き合い、あらゆる期待に応える解決策を提案します。ガバナンスとリスクマネジメントを徹底し、透明性の高い経営に努めます。

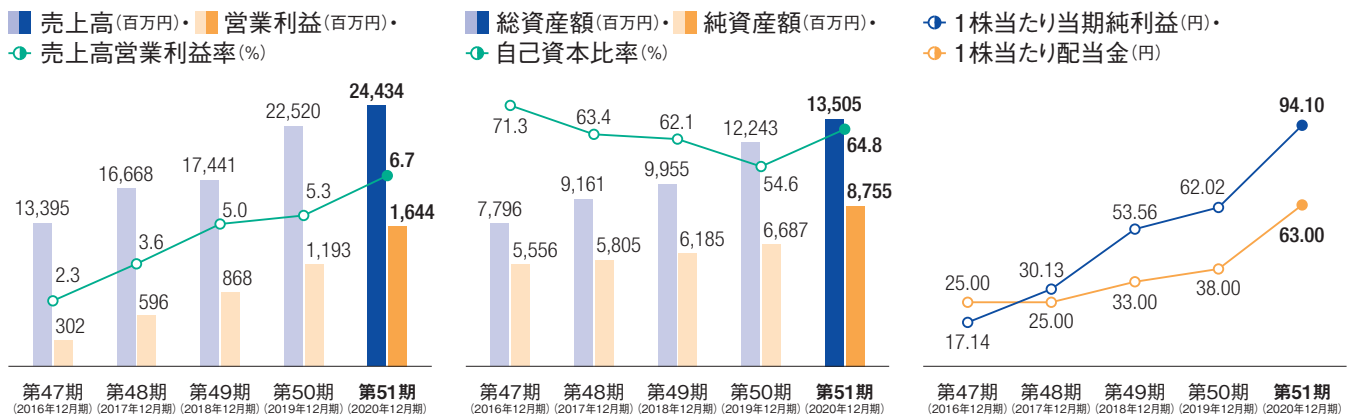
挑戦

夢のある未来へ向け、新たな価値の創造に情熱をもって取り組み、進化し続けます。



		第47期 (2016年12月期)	第48期 (2017年12月期)	第49期 (2018年12月期)	第50期 (2019年12月期)	第51期 (2020年12月期)
売上高	百万円	13,395	16,668	17,441	22,520	24,434
営業利益	百万円	302	596	868	1,193	1,644
売上高営業利益率	%	2.3	3.6	5.0	5.3	6.7
経常利益	百万円	325	627	917	1,227	1,712
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	175	307	546	633	994
純資産額	百万円	5,556	5,805	6,185	6,687	8,755
総資産額	百万円	7,796	9,161	9,955	12,243	13,505
自己資本比率	%	71.3	63.4	62.1	54.6	64.8
1株当たり当期純利益金額	円	17.14	30.13	53.56	62.02	94.10
1株当たり配当金*	円	25.00	25.00	33.00	38.00	63.00
配当性向	%	72.9	41.5	30.8	30.6	33.5
自己資本利益率	%	3.1	5.4	9.1	9.8	12.9
株価収益率	倍	26.4	22.2	14.4	16.2	16.3

*「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を第50期より適用しており、第49期以前の総資産については、遡及後の数値となっております。



※当社は、2021年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第47期(2016年12月期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

2021年度 業績見通し (連結)

<p>売上高</p> <p>260 億円</p> <p>(前連結会計年度比 6.4%増)</p>	<p>営業利益</p> <p>17億70 百万円</p> <p>(前連結会計年度比 7.7%増)</p>	<p>経常利益</p> <p>18億50 百万円</p> <p>(前連結会計年度比 8.0%増)</p>	<p>親会社株主に帰属する当期純利益</p> <p>10億70 百万円</p> <p>(前連結会計年度比 7.6%増)</p>	<p>1株当たり配当金</p> <p>29 円</p>
---	---	---	--	------------------------------------

SDGs TOPICS 社会課題に対する事業の取り組み状況

社会課題	重点領域
<p>9 産業と資源効率の改善につなぐ</p> <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> <p>情報通信インフラの高度化</p>	5G関連市場の拡大支援
<p>9 産業と資源効率の改善につなぐ</p> <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> <p>安心・安全・快適な移動</p>	車載、モビリティ・サービス領域の強化
<p>3 持続可能な健康を確保する</p> <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> <p>医療のICT化</p>	医療情報分野(AI、クラウド)への取り組み
社会課題	経営基盤
<p>5 ジェンダー平等を促進する</p> <p>8 持続可能な成長を促進する</p> <p>人財育成の促進、従業員満足度の向上、多様性の実現</p>	人財
	重点施策
	教育制度の充実、働き方改革

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは
持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs<エスディーゼーズ>)とは国連の持続可能な開発のための国際目標であり、17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)からなります。SDGsとは、これらの英語の頭文字と最後のスペルをとったものです。

アイ・エス・ビーグループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

株式の状況 (2020年12月31日現在)

発行可能株式総数	12,500,000株
発行済株式の総数	5,669,952株
株主数	4,708名

大株主情報

株主	当社への出資状況	
	所有株式数 (株数)	持株比率 (%)
有限会社若尾商事	1,000,700	17.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	275,200	4.85
アイ・エス・ビー・グループ従業員持株会	250,000	4.40
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	173,600	3.06
若尾一史	137,636	2.42
MSCO CUSTOMER SECURITIES	115,536	2.03
株式会社第一情報システムズ	90,000	1.58
クレディ・スイス証券株式会社	85,339	1.50
ROYAL BANK OF CANADA (CHANNEL ISLANDS) LIMITED - REGISTERED CUSTODY	80,000	1.41
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	71,500	1.26

会社情報 (2021年3月26日現在)

社名	株式会社アイ・エス・ビー ISB CORPORATION																
設立	1970年(昭和45年)6月																
資本金	23億3,251万円																
従業員数(連結)	2,084名(2020年12月31日現在)																
役員	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役会長</td> <td>若尾逸雄</td> </tr> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>若尾一史</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>竹田陽一</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>関本祥文</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>小笠原芳市</td> </tr> <tr> <td>取締役(常勤監査等委員)</td> <td>久世慎一</td> </tr> <tr> <td>社外取締役(監査等委員)</td> <td>渡邊芳樹</td> </tr> <tr> <td>社外取締役(監査等委員)</td> <td>浅井清孝</td> </tr> </table>	代表取締役会長	若尾逸雄	代表取締役社長	若尾一史	取締役	竹田陽一	取締役	関本祥文	取締役	小笠原芳市	取締役(常勤監査等委員)	久世慎一	社外取締役(監査等委員)	渡邊芳樹	社外取締役(監査等委員)	浅井清孝
代表取締役会長	若尾逸雄																
代表取締役社長	若尾一史																
取締役	竹田陽一																
取締役	関本祥文																
取締役	小笠原芳市																
取締役(常勤監査等委員)	久世慎一																
社外取締役(監査等委員)	渡邊芳樹																
社外取締役(監査等委員)	浅井清孝																
本社	〒141-0032 東京都品川区大崎5-1-11 住友生命五反田ビル TEL 03-3490-1761(代表) FAX 03-3490-7718																
事業所	我孫子、五反田、新横浜、三島、甲府、名古屋、大阪																

グループ会社

株式会社エス・エム・シー	システム構築保守、運用サービスなど、顧客のビジネスを支援するITサービスを提供。
株式会社アイエスピー東北	仙台を中心に、産学官共同開発など、地元に着実した事業を展開。
ノックスデータ株式会社	長年培った品質を強みとし、スピード感を持ってソフトウェアを開発。
株式会社スリーエス	ソリューション事業・ソフトウェア開発事業を展開。首都圏などからのニアショア開発も推進。
株式会社アート	業界のバイオニアとして出入管理システムなどのセキュリティー関連製品の開発・販売。
アートサービス株式会社	アート製品の修理・保守サービスを提供。
コンピュータハウス株式会社	技術力や想像力を背景とした質の高いITサービスの提供。
株式会社テイクス	IT技術者の育成を強みに、関東圏内に事業所を展開し、システム開発支援事業を営む。
ISB VIETNAM COMPANY LIMITED	オフショア開発で、高品質かつ適正価格のサービスを提供。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	12月31日
中間配当金受領株主 確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告の方法	電子公告により行う公告掲載URL https://www.isb.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主さま向けアンケート

株主の皆様のお声を聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

https://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 9702

いいかば

検索

空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jp へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media についての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com



〒141-0032 東京都品川区大崎5-1-11 住友生命五反田ビル8F
TEL : 03-3490-1761 FAX : 03-3490-7718

<https://www.isb.co.jp/>

